

燃油高騰対策強化を

党北海道委 道経産局に緊急要請

本格的な冬を前に、北海道内で灯油など燃油価格が高騰し、道民の暮らしを直撃している問題で、日本共産党道委員会は15日、燃油や石油製品の高騰対策の強化を急げと、道経産産業局に緊急に要請しました。

青山慶二委員長と山和也前衆院議員、菊地葉子、佐野弘美両道議、村上仁、伊藤理智子両札幌市議、森つねと、橋本美香両道議候補が参加しました。

道内では、灯油が1リットルあたり100円を超え、レギュラーガソリンは160円を超える地域も出ています。

梶山氏は、厳冬期

を前に道民、特に低所得者の命と暮らしを守り、各産業への影響を最小限にとどめる緊急対策を求めました。菊地氏は「中小業者は資金繰りが大変。地域経済に影響が出て、燃油高騰が追い打ちをかけ、特別な支援が必要だ」と訴えました。

資源エネルギー環境部の清野正樹資源・燃料課長は、元売り各社に増産、輸入拡大を求め、異常な価格引き上げには公正取引委員会と連絡をとり、処置していくと答えました。梶山氏は、道民の暮らしに支援へ積極的な支援を求め、経産省・道経産局で何ができるか具体的に検討し、万全の対策を講じるよう重ねて要望しました。



道経産局(右)に要請する党道委員会の人たち11月15日、札幌市